

2022.3.16

「デザイン・ウィズ・ネイチャー」(自然に寄り添うデザイン) マリオ・クチネツラによるサローネの大型インスタレーション 好循環のエコシステムが未来の暮らしを表現

倫理、循環型社会、インテリア空間、参加型建築、都市再生：デザイン・ウィズ・ネイチャー(自然に寄り添うデザイン)は、多くの提案と考察、リサイクルとアップサイクルの旗印の下でのデザインと感情の旅、人間と自然の歩み寄りを演出する、持続可能な生活の価値に関する議論の出発点です。

第60回を迎えるミラノサローネでは、今年も、今後のデザイン活動のヒントとなる「自然」と「暮らし」の関係を探る重要な展示・インスタレーションが行われます。6月7日から12日まで、S.プロジェクト 15ホールでは、建築家マリオ・クチネツラと共同で開発したプロジェクト、デザイン・ウィズ・ネイチャー(自然に寄り添うデザイン)を開催します。このプロジェクトでは、都市は未来の「予備軍」であり、建築に役立つ大半の素材が見つかるという観点から、循環経済と再利用をテーマとします。そして、都市部は環境負荷低減のための新たなチャンスの場となります。

このインスタレーションは、エコロジーの変遷、都市の要となる家、都市鉱山という3つのテーマに基づいており、風景となると同時に、対話、共有、読書、考察、仕事のための避難場所となる大きな表面に展開されています。

近年の出来事を経て、私たちは社会性の価値を再認識しています。しかし、私たちを取り巻くもの、すなわち小規模(家庭から都市まで)でも大規模(地球)でも、私たちが暮らす空間や領域、そして私たちが持つ資源との新しいバランスを見出さなければなりません。そのため、建築家であり、マリオ・クチネツラ・アーキテクトの創設者 兼 アーティスティック・ディレクターのマリオ・クチネツラは、エコシステムのビジョンを次のように表現しています：

「デザインと環境に配慮した新しい社会性に特化した大空間。このインスタレーションでは、エコシステムという言葉が基本となっており、未来のビジョンがいかにエコシステムでなければならないか、新世代の素材とデザインにおける知識、スキル、技術を結びつける方法を知っているかを伝えたいと考えています。『エコシステムの知識』は、自然に対する新たな敬意を通じて生活を向上させるという最終的かつ統一的な目的を持つでしょう。」

自然の一部であるすべてのものが変容し、より多くの機能と命を持つように、「デザイン・ウィズ・ネイチャー(自然に寄り添うデザイン)」を構成するパーツもまた、形と機能のジグソーパズルとなり、ミラノサローネ閉会後は、学校の本棚や、公共スペースのベンチ、仕事場の作



業台などと、新しい目的地で新しい命が与えられます。使用する建材は、自然のサプライチェーンから調達されます。これは、エコロジーへの移行がすでに進行中であり、企業がこの変化において主導的な役割を果たせることを示し、また、廃棄物を変換して再利用することもできます。都市には、循環型プロセスで回収できる資源や材料が豊富にあるのです。

そのため、「デザイン・ウィズ・ネイチャー(自然に寄り添うデザイン)」は、原材料を消費し続けることなく、エコロジーの好循環を活性化することで、自然と共存した製品を作り、新たな製造方法のヒントを与えます。自然に寄り添って行動することで、私たちは自然との新しい、根源的で重要な関係を見出すことができるのです。

「デザイン・ウィズ・ネイチャー(自然に寄り添うデザイン)」
新素材のために。新しい暮らしのために。より良い街のために。

プレスお問い合わせ先:

山本幸 Yuki Yamamoto
yuki@milanosalone.com
milanosalone.com

International press info:

Marva Griffin-Patrizia Malfatti
press@salonemilano.it